

近江八景：唐崎夜雨（からさきのやう）

唐崎は大津の北、琵琶湖の西岸に位置しています。琵琶湖の方に突き出た土地に唐崎神社があります。神社は7世紀に創建されたもので、坂本地区のさらに北にある日吉大社の摂社です。歌川広重（1797～1858）や俳人松尾芭蕉（1644～1694）など多くの芸術家に影響を与えた神聖な松の木（霊松）で有名な神社です。

広重の木版画の保永堂版では、広大な松の木の広がり完全に焦点を当てています。大雨に覆われ、水辺から見ると前景の小舟のように、ほとんど浮いているように見えます。広重が描いた雄大な松の木は、1591年に初代の唐崎の松を伐採した後に植えた2代目の松の木です。残念ながら、広重時代の木も1921年に枯れ、現在の木はその子孫です。100年の歳月を経ても、新樹はまだ先代のような壮大なスケールには達していませんが、雨の中では優雅で神秘的な姿を見せてくれます。